

社会資本(ソーシャル・キャピタル)の概念と 地域再生における意義

大守 隆

(tomori@tcu.ac.jp)

東京都市大学 環境情報学部
アジア太平洋経済協力 経済委員会議長
内閣府政策参与

科学技術・学術審議会 資源調査会分科会
(2011年10月14日、於文部科学省)

個人の考えであり、必ずしもAPECや内閣府の考えではありません

1

要旨: ソーシャル・キャピタルは、重要な地域資源

1. ソーシャル・キャピタルとは何か？
2. どのように計測するか？
3. どのように議論されてきたか？
4. なぜ、重要な地域資源なのか？
 - ① 経済に与える影響(一般論)
 - ② 地方の文脈で考えると
 - ③ SCサイクルの可能性
5. 資源としての特性はどのようなものか？
歴史・文化資源との相性の良さ
6. どのように醸成するか？

2

1. ソーシャル・キャピタルとは何か？

- (1). 社会資本、社会関係資本とも呼ぶ。
道路・港湾などのハード・インフラとは違う。
制度化されたソフト・インフラとも違う。
- (2). 定義は各種あるが、多くは存在と機能の両方を含む。
OECDの定義(大守訳):
「規範や価値観を共有し、お互いを理解しているような人々で構成されたネットワークで、集団内部または集団間の協力関係の増進に寄与するもの」
(Network together with shared norms, values and understanding that facilitate cooperation within or among others.)。
- (3). キーワードは、
(一般的)信頼、ネットワーク、互酬性、帰属意識 等

3

2. どのように計測するか？

- (1) どのような指標や問いを使うか？
 - ①. 信頼度指標: 最も普及
「一般的に人は信頼できると思いますか、それとも用心するに こしたことはないと思いますか？」という問いに
yes と答えた人の比率
←しかし、「人」の範囲には個人差がないか？
 - ②. 参加しているクラブの個数
←しかし同じ「会員」でも濃密度の差が大きい。
 - ③. その他
ボランティア活動の参加率、参加時間
←時間を費やしていてもPTAのように義務的なものも。
お礼と連絡先を入れて故意に落とした財布の回収率
←サンプル数が多ければ信頼できるが・・・
回数(地域の指導者と面会、外国人を自宅に招く、等)
←文化の差や地域特性に影響されないか？

4

2. どのように計測するか？

(2) 日本における地域指数の例

① 市民活動インデックス(山内2003、既存指標)

- ・(NPO法人シェア、非営利組織のシェア、非営利雇用シェア)
(家計寄付性向、共同募金寄付性向、献血指数)
(ボランティア行動者率、ボランティア日数、福祉ボランティア数)
の9系列を偏差値に直し単純平均
- ・熊本、沖縄、宮崎で高く、千葉、愛知、茨城で低い

② 内閣府(2003、郵送1878+ウェブ2000回答のアンケート)

- ・「一般的信頼、相互信頼・相互扶助」、「近隣でのつきあい、社会的な交流」、「社会参加」の3分野
- ・指数の高い地域では失業率や犯罪率が低い、出生率が高く、平均寿命が長く、起業率が高い、傾向。

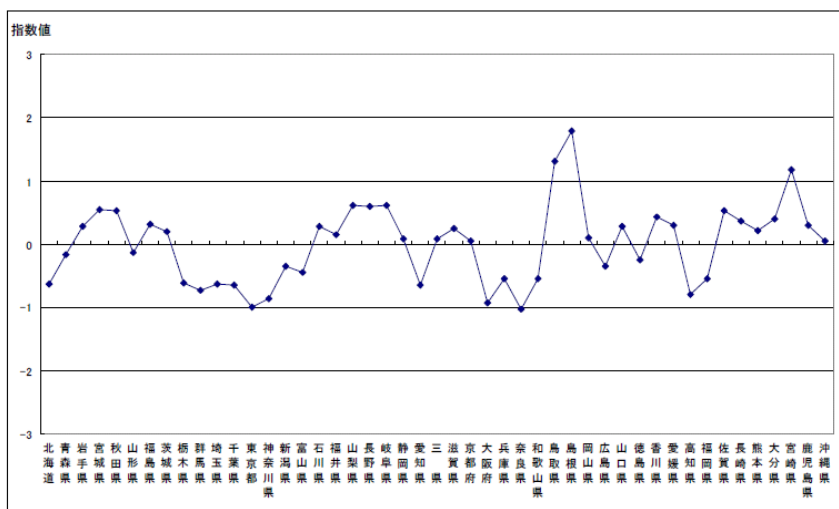
③ 日本総合研究所(2007、ウェブ3000回答)

- ・上記3分野だが、設問項目を入れ替え

5

2. どのように計測するか？

(3) 内閣府(2003)調査の概要 (統合指数は大都市で低く、地方で高い傾向)

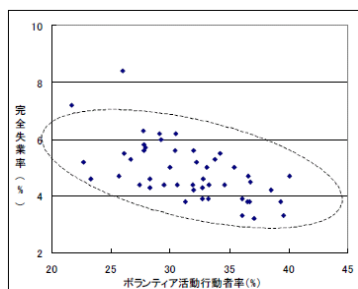


都道府県別の統合指数

2. どのように計測するか？

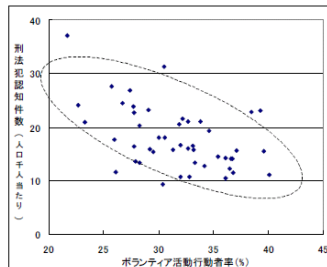
(3)内閣府(2003)調査の概要 —続き

他の指標との相関

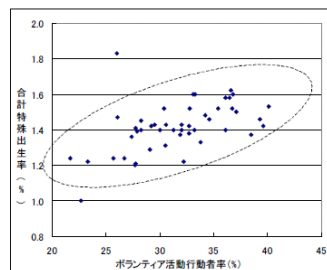


ボランティア活動行動者率と失業率

出所:平成14年度 内閣府委託調査
「ソーシャル・キャピタル:
豊かな人間関係と市民活動の
好循環を求めて」
平成15年6月(委託先:日本総合研究所)



ボランティア活動行動者率と犯罪発生率

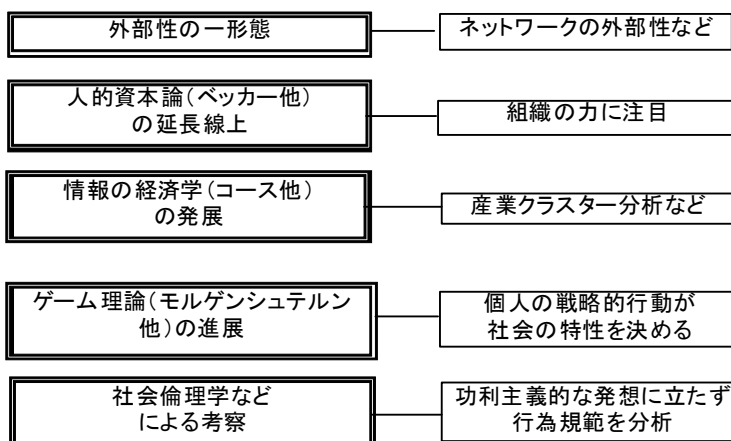


ボランティア活動行動者率と出生率

7

3. どのように議論されてきたか？

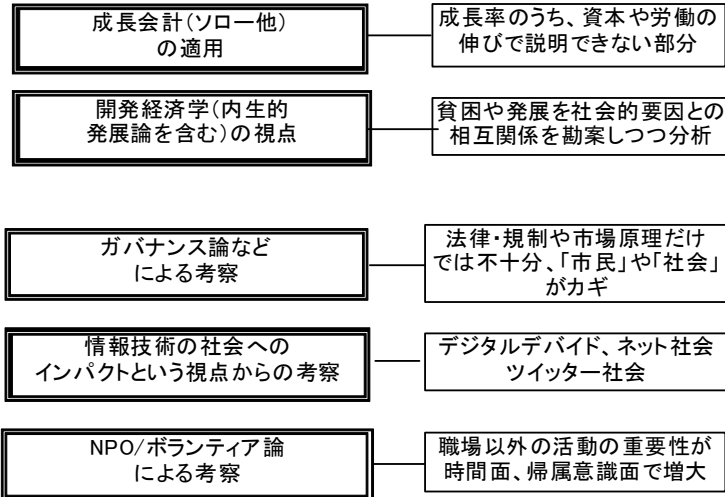
(1). 多くの分野からさまざまな接近がなされてきた



8

3. どのように議論されてきたか？

(1). 多くの分野からさまざまな接近がなされてきた (続き)



9

3. どのように議論されてきたか？

(2). 名前は新しいが類似の概念は日本やアジアでは必ずしも新しいものではない

- ①. 江戸末期の外国人の日本観察
科学技術は遅れているが、社会の運営の円滑さや規範意識に驚嘆
- ②. 世界最初の先物市場の成立も江戸時代の大坂
相手が約束を守る、との信頼があって始めて成立
- ③. 地域自治の伝統
結、惣、講、座、湯仲間といった自発的組織

10

3. どのように議論されてきたか？

(3) アジアでも類似の濃密なソーシャル・キャピタルが存在

- ・ 朝鮮にも「プマシ」や「トゥレ」等
- ・ 西洋に比べ労働力の動員が大規模、生産の相互依存関係も強い。
- ・ 西洋では小麦の反収が低いので、農作に広大な面積が必要で、家畜に依存する傾向。米作は土地集約型であり、かつ水田では水を共同利用しているので同じ水系を利用している人々の調整が必要。
- ・ アジアでは人口密度の超密さもあいまって相互監視が強かった。連帯感の象徴としての祭りも活発。
- ・ 日本で考案された交番の制度が、シンガポールやインドネシアなどアジア諸国に普及が進んでいるのもこうした背景。
- ・ 濃密な人間関係を背景にクローニー・キャピタリズムが生じたことは驚くに当たらない。しかし、アジア的風土が市場メカニズムと本質的に適合しないということではない。

11

3. どのように議論されてきたか？

(4). アジアの伝統的なソーシャル・キャピタルの特徴

- ①チームワーク重視(土地集約型農業生産が共同作業を必要としたことが背景)
- ②相互監視の強さ(高い人口密度が背景)。
- ③高齢者の積極的役割と敬老精神(生産活動から引退しても地域社会経営等に関与)
- ④「祭り」が一体感や帰属意識醸成の上で重要な役割を果たしてきた。
- ⑤クローニー的傾向も(国によっても差)。
- ⑥自然との関係はより複雑であるが、エコロジーを重視し、自然を舞台とした共生意識

12

3. どのように議論されてきたか？

(5). ソーシャル・キャピタル研究の3つのリスク

学際的な概念(経済学、社会学、政治学、教育学、心理学、倫理学・・・)であるので、以下の3つのリスクに注意しながら研究を進める必要

1. 分野の異なる専門家が定義を巡って延々と議論するリスク
2. 研究より運動になってしまうリスク
3. 伝統分野の学者からの反感を招くリスク

「この用語が広く使われるようにはなったものの、経済学者に好まれる用語にはなっていない」(Dasgupta and Serageldin(2000)、大守訳)
ただし、一流の学者による熱心な議論も行われている。

13

4. なぜ、重要な地域資源なのか？

(1). SCの経済への影響

①マクロ経済への効果

経済成長率を高めるとの研究も

例:「信頼度指数が10%p高いと経済成長率が0.8%高い」(La Porta他(1997))

懐疑論もある(因果ではない、他の要因、・・・)
厳密な実証は困難

②ミクロ経済(家計、企業、政府の活動)への効果

いくつかのグループに分類

ア. 情報の不完全性を軽減する。

契約コストが低下、取引相手への理解増進

建設的な交渉を促進、準秘密情報の交換

ITCの発達はこうした経路を促進する可能性も

14

4. なぜ、重要な地域資源なのか？

(1). SCの経済への影響

②ミクロ経済への効果(続き)

イ. 市民的成熟

治安の改善、企業間協力、
ネットワーク外部性の享受、
公共施設の自主管理等、
SCの一層の蓄積を促進

ウ. 仲間の存在(インセンティブを通じた影響)

人的蓄積や前向きな挑戦を促進(非文脈依存)
企業のガバナンス改善、
地域社会を活性化、個性化
社会的消費を促進

15

4. なぜ、重要な地域資源なのか？

②ミクロ経済への効果(続き)

エ. その他

貯蓄率に影響(助け合いはリスク分散)、
企業の存続価値と精算価値の差を拡大、
高齢者の健康増進、
地価の押し上げ、
地域経済の自立度を高める

③マイナスの影響もある

ア. 行き過ぎた地産地消や、域内消費優遇、
地域通貨などは、保護主義的な色彩

イ. 相互監視

ウ. ボンディング志向が強く疎外感や被害者意識が
過度に強い集団の可能性

16

4. なぜ、重要な地域資源なのか？

(2). 逆に経済もSCに影響を与える

①所得格差が小さいと社会参加が活発

②発展段階とのU字型関係

農耕社会では地域社会の協力が必須
その後法制度や市場経済で代替された機能も
最近になって、あらためて見直されてくる
代替に伴って衰退した機能の見直し
豊かになって生き甲斐の追求

③情報通信技術の発達

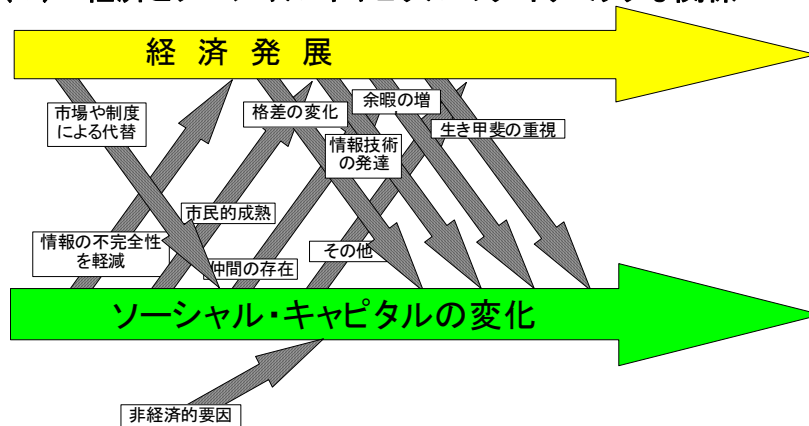
④余暇時間の増大

⑤技術進歩による協業の必要性低下

17

4. なぜ、重要な地域資源なのか？

(3). 経済とソーシャルキャピタルのダイナミックな関係



伝統的な経済成長理論は各国の長期的発展の差に関して、
howの説明はできても、whyの説明がしにくい。
ソーシャル・キャピタルとの相互依存関係も踏まえれば説明力は増すが、
一方で複数均衡や経路依存性といった複雑さが出てくる。

18

4. なぜ、重要な地域資源なのか？

(4). 地方の文脈で考えると

伝統的な経済学ではWin・Winの構想は市場メカニズムを通じて実現されると考えられてきた。

ところが、現実にはそうならない。特に地方経済や発展途上国でその傾向が強い。何故か？（3つの「り」）

- ①その構想がなかなか理解されない。説き手の信用が重要。
「よそ者」は警戒される。
←普段から培った信頼関係が重要
- ②理解されても、現状を変更するので、リスクを伴う。
リスクをとって変化していくためのインセンティブが必要。
←皆で一緒に新しい挑戦をするための「人の和」があるか？
- ③利益が増えるとしても、他者の増え方とのバランスが不安
←誰かが独り占めしないという信頼感や
皆の信頼を得て利害調整に当たるようなリーダーがいるか？

地域での新しい前向きな挑戦にとってソーシャル・キャピタルの果たす力は大きい。19

4. なぜ、重要な地域資源なのか？

(5) SCサイクルの可能性 —長浜市の事例

①. 豊かなソーシャル・キャピタル

- (1)秀吉以来の曳山祭りの伝統
- (2)高い住民の定着率
- (3)黒壁スクエアとガラスアート産業

②. 京都大学医学部の提案

- (1)ゲノム情報の収集とモニタリング
- (2)「健康づくり0次クラブ」での講演会の講師等
- (3)情報の本人へのフィードバックなし
- (4)「ながはまルール」作り
 - ①個人情報保護、
 - ②バイオバンクと法整備、
 - ③地域づくりへの活用



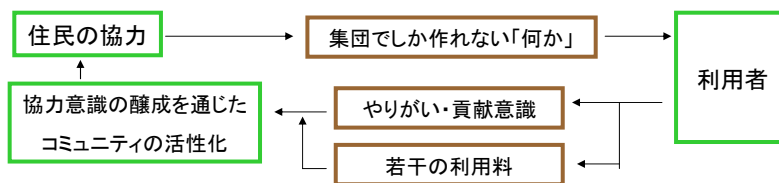
20

4. なぜ、重要な地域資源なのか？

(5) SCサイクルの可能性－長浜市の事例(続き)

③. 今後の潜在的可能性

- (1) それでもデータベースは貴重な資産
- (2) 統計の分野では、匿名データの提供・利用や
オーダーメイド集計が始まっている。
- (3) 資産として収益を生み得る。
- (4) それが活動費として「SCサイクル」を形成していく可能性



- (5) ゲノム以外にも、
教育、健康法、農業、消費統計…など広範な適用性

21

5. 資源としての特性はどのようなものか？

表1. 他の資本や資源との比較

特性	天然資源	歴史資源	物的資本	人的資本	社会関係資本
他の生産要素と柔軟に組み合わせられるか？	困難	可能*	事前には可能	比較的可能	可能なことも
目的以外の用途に役に立つか	余り立たない	工夫の余地	余り立たない	時として	しばしば
償却率は安定しているか？	安定	増価も	安定	ほぼ安定	不安定
使い続けると強化されることがあるか？	使うと減る	しばしば	ない	時々	しばしば
突然陳腐化することがあるか？	ない	ない	ない	余りない	ある
生産性の抑制要因になることがあるか？ (不要の際使わずにすむか？)	余りない	時として (遺跡発見)	ない	ない	ある
総量(集計量)がどの程度意味があるか？ (一次元的概念か？)	余りない (種類毎)	ある程度ある (集客力)	ある程度ある 資本ストック	ある程度ある 賃調整後労働力	あまりない (**)

* 歴史資源と社会的資本とをうまく組み合わせると、相乗効果が期待できる場合も。
** 例えば、「ロミオとジュリエット」(町が二つの勢力に分断されて、相互に反目)
歴史資源と社会関係資本は、「使い減りしない」という共通点

22

6. どのように醸成するか？

- (1) 伝統的な社会政策(生活保護、母子家庭手当、失業保険等)
- (2) 各国が昔から行っているのは持家促進策
- (3) NPOへの寄付税制(国による大きな差)
- (4) 特定活動を自治体が優遇して育てることは困難だが、
出てきたものを育てる。
- (5) 規制改革に関する特区
- (6) 公共施設の活用の可能性(様々な工夫が始まっている)。
- (7) 「郷土史」や「祭り」の再評価。
- (8) 教育(ボランティア体験、就業体験、社会人教師)
- (9) 情報社会のルール作り
- (10) 地域通貨や地域消費優遇のルール作り
- (11) 移民政策

23

まとめ: ソーシャルキャピタルは、重要な地域資源

1. ソーシャル・キャピタルとは、**信頼、ネットワーク、互酬修性、帰属意識**などをキーワードとする概念である。
2. この用語は新しいが、この概念自体は東洋、特に日本では**必ずしも新しいものではない**。
3. この用語は**定義**もまだ定まっておらず、**計測**も容易ではなく、既存の諸学問で検討されてきた**概念との重複**もあることに注意。
4. ソーシャル・キャピタルは**様々なプラスの経済効果**を持ち得るが、**マイナスの効果**もある。また、**保護主義的な側面**も持ち得ることに注意が必要。

24

まとめ(続き)

5. **win-winな構想**でも、地方や発展途上国では必ずしも自然に実現しないことがある。ソーシャル・キャピタルはその**実現**に大きな効果がある。
6. ソーシャル・キャピタルは、**集団**でしか作れない「**何か**」を作れる。
7. ソーシャル・キャピタルは、**重要な地域資源**と考えられる。特に**歴史・文化資源**との**相性**に可能性。
8. ソーシャルキャピタルを醸成するための**政策**には様々なものがある。

25